執筆者紹介（掲載順）

佐々木　閑　（花園大学教授）
角田　泰隆　（仏教科教授）
石井　公成　（仏教科教授）
奥野　光賢　（仏教科助教授）
岡本　一平　（仏教科非常勤講師）
須山　長治　（仏教科非常勤講師）
袴谷　憲昭　（仏教科教授）
紺野　馨　（仏教科非常勤講師）
池田　道浩　（仏教科非常勤講師）
木村　誠司　（仏教科教授）

編集後記

▽『駒澤短期大学佛教論集』第十号をお届けいたします。本号は、昨年号よりやや薄いものの、これまでの号と同様に、インド・チベット・中国・日本、それも古代から現代に至る幅広い分野にわたる内容となりました。

それにしても十号ともなると、いろいろなことが思い起こされてなりません。中でも忘れがたいのは、仏教科独立以来、非常勤講師として長らく御出講くださり、論集にもたびたびご寄稿くださった大西龍峯先生が、一昨年の五月に急逝されたことでしょう。本号には、年度の途中で大西先生担当の講座を受け継いでくださった岡本一平先生が、御論文を寄せてくださっており、月日のたつ早さを痛感させられます。

▽巻頭には、昨年の仏教科公開講演会における佐々木閑先生の御講演「インド仏教史の新たな視点―現代仏教学におけるパラダイムシフトは可能か―」を掲載させていただきました。御講演では、次から次へと繰り広げられる思いもかけない問題提起と楽しいお話に会場が沸きに沸いたことが、つい先日のことのように思い出されます。ご講演と同様に盛り上がった懇親会以後、しばらくの間は、ご講演の話題が続いたことでした。

ご講演原稿の校正を拝読していると、近代仏教学は曲がり角に来ているという思いがいたします。明治という時代とともに始まった日本の近代仏教学は、昭和の十五年戦争の時期に大きく歪められ、敗戦の後、過去を引きずりつつ再出発しました。今後、新たな方向を目指すためには、おそらく近代仏教学の歴史そのものを検討し直し、諸国における近代仏教学と日本の近代仏教学との共通点と違いについて考えてゆくことが必要となるのでしょう。

▽在外研究で愛知学院大学大学院に行っておられた角田泰隆先生が、四月から復帰されたため、研究室がいっそう活気づきました。来年の論集には、久しぶりに卒業研究のレポートを載せることができるよう、学生諸君の奮起を期待したいところです。

（編集係　石井公成）

駒澤短期大学仏教科
仏教論集　第十号

二〇〇四年十月三十一日　発行

発行人　駒澤短期大学仏教科研究室
代表　木村　誠司

発行所　駒澤短期大学仏教科研究室
東京都世田谷区駒沢一丁目

印刷所　㈱東京技術協会
東京都港区三田四―八―四一